

授 業 科目名	【 G 】 【 H 】	法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	区 分 選 択 必 修	開講年次	【 G 】 2 【 H 】 2	単位数	【 G 】 2 【 H 】 2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	ケースから、法学(法律学)に慣れる			担当者	百 合 草 浩 治			
授業概要	【概要】	具体的なケースを用いて、法学(法律学)に慣れることができるように、2年生にとっても理解のしやすいであろう問題を取り上げて、①問題となっている事柄のポイントを正確に把握できるようになる、②その問題をめぐって主張されている見解を調べて、その見解についての理解を深める、③自らの見解を打ち立てる、といったことを演習参加者の共同作業として進めていきたい。 なお、担当者の専門領域が刑事法学(刑法、刑事訴訟法、刑事政策)であることから、その分野に関連する問題を取り上げることが主になると思われるが、それ以外の問題も広く取り扱う。						
	【到達目標】	学問的な課題に対して、上記①～③の作業要領(グループワークを含む。)を体得すること。						
履修条件	特になし。							
アクティブ ラーニング の方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【○】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	「プレゼミⅠ、Ⅱ」の延長線上に位置づけられ、3・4年次の必修科目である「研究会」の前段階の科目として設置されている科目である。必修科目ではないものの、2年生のみを対象とする演習科目であるため、ぜひ、2年生には、積極的に履修してもらいたい。							
教科書	特定の書籍を教科書には指定することは、しない。							
参考書	参考となる書籍として、例えば、瀧川裕英(編)『問いかける法哲学』有斐閣、瀧川裕英(編)『もっと問いかける法哲学』有斐閣、『まだ、法学を知らない君へ』有斐閣、『今、法学を知りたい君へ』有斐閣、『大学生と法学』有斐閣、尾島史賢『法的思考のススメ』関西大学出版部、『学生のための法律ハンドブック』成文堂、松井茂記『日本国憲法を考える』大阪大学出版会、松井茂記(編)『憲法を考える』、『基本的人権の事件簿』有斐閣、伊東研祐(編)『はじめての刑法』成文堂【ただし、すべて、最新の版】など。							
評価方法	授業への取組状況全体を総合的に評価する。 具体的には、授業への参加態度、担当したテーマに関する報告内容などを総合的に判断する(100%)。							
フィードバック 方法	授業内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、授業でもそれに触れる。							
評価基準	原則として、10回以上「出席」していることを単位認定の前提とする。授業に積極的に参加し、担当したテーマをよく理解し、議論において適切に表現できた場合、その程度に応じて、「S」または「A」とする。参加態度、理解度、表現内容等が十分とはいえない場合、その程度に応じて「B」または「C」とする。参加態度、理解度、表現内容等が最低限度に達しない場合、その程度に応じて「D」または「E」とする。自らの発表が行われなかった場合、あるいは、欠席回数が著しく多いなど、評価不能な場合「F」とする							

授 業 科目名	【 G 】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	選 択 必 修		【 H 】 2		【 H 】 2
授業内容	前期は、原則として、担当教員の方で、テーマを設定し、その内容を概説したうえで、それについて参加者全員で「議論」をする、という形式をとる。					
	後期は、可能な限り、（予め定められた）その回の担当者が「発表・報告」をし、それについて参加者全員で「議論」をする、という形式をとる。どのようなテーマを扱うのかについては、受講者各自の希望を最大限尊重することにした。					
	※ 従って、後期の「Ⅱ」においては、報告・議論のための事前の準備等が必要不可欠である。					
	【報告担当の回】 各自、事前に作成してきたレジュメを単に「読む」だけでなく、参加者の理解を助けるような工夫などを常に意識しながら、わかりやすい報告を行ってほしい。					
	【報告担当以外の回】 報告を聞いている際に、ただ、ほかの人の話を聞いているだけではなく、たとえば、自分ならどのように考えるか、あるいは、どのように説明をするのか、というように、取り組んでもらいたい。					
	<アクティブ・ラーニングに関する取組み> 担当教員・受講生間の双方向、かつ、受講生間での相互のやり取り等をメインとする演習科目である。ぜひ、授業では、質問・疑問や意見などを積極的に出すようにしてください。					
	この演習科目の主要な目的の1つは、文書（および文章）作成能力・プレゼンテーション能力・他者に対する自らの意思伝達能力・コミュニケーション能力の向上、そして、その前提となる情報の収集・処理能力の向上である。					
	※ 真剣な議論を行いつつも、他者との議論を「楽しむ」ことを通じて、多様な視点・角度から物事を洞察し、的確な判断を下すことができるようになるための知的かつ実践的なトレーニングの場としたい。					
	いずれにしても、本演習では、参加者各自および相互の主体的かつ能動的な取組みが期待されている。					
	予習内容	各回のテーマは、事前に確定されるので、可能な限り、参加者各自において、予習（＝情報収集）をしてほしい。 ○ 授業ごとの予習時間は90分程度を目安としてください。				
復習内容	授業後に、その回の報告及び議論を通じて各自が獲得した知見、気付いた点等をノート等にまとめてほしい。 また、たとえば、疑問に感じた点などを自らさらに調べたり、友人などと意見を交換したりするなど、授業で扱ったテーマについて、各自、自由に掘り下げてほしい。 ○ 授業ごとの復習時間は90分程度を目安としてください。					
その他	特になし ※Gカリ:【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】					